学校教育実践学研究，2021，第27巻，39－47頁

イギリス中等地理教科書 Oxford University Press『Geog. 4th edition』における地誌単元の内容分析

由井　義通・阪上　弘彬*・村田　翔**・横川　知司***・潘　意涵***・陶　子***・岩佐　佳哉****・藤村　大智*****・頼富　収吾******・原田　歩*******・藤岡　柚衣*******・劉　暁一*******・耿　静文*******・沈　彧磬*******・奥村　尚*******・玉井　慎也*******・真崎　将弥*******・渡邉　竜平*******・鄧　竹珂********・安藤　瑛啓********・村田　一朗********・王　莹*********

（2020年12月7日受理）

Analysis for the units of regional geography on UK's geography textbook: The case study of "*Geog 4th edition*"

Yoshimichi Yui, Hiroaki Sakaue, Sho Murata, Satoshi Yokogawa, Yihan Pan, Zi Tao, Yoshiya Iwasa, Daichi Fujimura, Shugo Yoritomi, Ayumu Harada, Yui Fujioka, Xiaoyi Liu, Jingwen Geng, Yuqing Shen, Naoki Okumura, Shinya Tamai, Shoya Masaki, Tappei Watanabe, Zhukew Deng, Akihiro Andoh, Ichiro Murata and Ying Wang

In Britain, the volume of "Regional Geography" was decreased in "the National Curriculum". The aim of this paper is to cralify the contents of "Regional Geography" in Britain. We analyzed the geographical school textbook "*Geog 4th edition*" by Oxfor University Press. We find that "*Geog*" has only 2 or 3 case studies in each grade. The students don't learn all of the world in geographical class. That is because it is important to learn the geographical skill.

Key words：gegographical education, regional geography, geography textbook

1．研究の目的

中山（1996）は，地誌学とは，「地理学あるいは関連分野の成果を利用し，地域の特性を科学的に描くこと」とし，「地誌学は，地域や住民のアイデンティティーの明確化を目標とする学問」（p.90）とした。また，大嶽（2010）は，地誌学の表現方法は個性記述的で，個別の例を取り上げていると批判されるのは，地域のユニーク性の解明で，地域の個別性を強調しすぎると，一般化が困難になり，法則性，規則性に達しないためとした。学校教育における地誌は，学問分野の地誌学や地域研究の成果を受けて，世界各地の地理的諸現象について地域単位で学習することによって知識理解を図るものといえる。

しかし，従来の学校教育における地誌の授業は，谷内（2009）による指摘のように，地誌をつまらないもの，役に立たないものと思わせるものとなっており，その理由の一つとして，「地誌といいながら内容の多くは産物（特に輸出品）の羅列であり，その地域での人々の生活という視点に欠けていたこと」が挙げられている。また，アメリカの地誌教育の改善への取り組みについて研究した草原（2001）によると「表層的で無味乾燥な地誌指導を意義あるものに作り変えようとする問題意識は，これまでにも多くの研究者に共有されてきた」（p.9）とあり，地誌の授業の改善は，日本以外においても地理授業の課題となっている。一方，イギリスのナショナルカリキュラムでは，世界の諸

* 兵庫教育大学，**尾道中・高等学校，***広島大学大学院教育学研究科博士課程後期，****広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程後期，******香川県立香川丸亀養護学校，*******広島城北中・高等学校，*******広島大学大学院教育学研究科博士課程前期，*********広島大学大学院人間社会学研究科博士課程前期，**********広島大学大学院教育学研究科研究生

地域を満遍なく学習するのではなく，ケース・スタディーとして選出したいくつかの地域を学習するのみである。志村（2003）によると，地誌的内容量が多かった 1991 年のナショナルカリキュラムから，学習内容の精選によって地誌的内容が数次の改訂を経て大幅に削減されており，イギリスでは内容知としての地誌教育から地理的技能へとシフトしているといえる。その結果，地誌的な地域学習は，いくつかの地域のケーススタディーとして取り上げられており，網羅的な世界諸地域の地理的事象に関する知識ではなく，ケーススタディーとして選択された国や地域における地理的事象を通して，地理的思考やスキルの育成が図られている。

そこで，本稿ではイギリスのケーススタディー方式による地域学習がどのような内容構成であり，どのような学習プロセスを通して地理的思考やスキルの育成を図っているのかを理解することを目的として，Oxford University Press 社の中等地理教科書『Geog.4th edition』の内容分析を行う。

２．平成 30 年版高等学校学習指導要領「地理総合」における地誌の取り扱い

地誌教育における課題の克服を図り，平成 30 年改訂の高等学校学習指導要領では，「地理総合」において地誌の扱いが大きく変化した。『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　地理歴史編』（2018）の大項目Ｃでは系統地理的考察と地誌的考察として，「系統地理的考察では，自然地理的な事象（自然環境など）と人文地理的な事象（資源，産業，交通・通信，観光，人口，都市・村落，生活文化，民族・宗教など）について，それぞれの事象の分布やまとまりに見られる空間的な規則性，傾向性とその要因などに着目して考察することが求められる。また，地誌的考察では，それらの個別の事象が重層的に組み合わさった，現代世界を構成する諸地域の地域性と諸課題を，選択した地域の学習を通して考察することとなる。これらの考察は，地理の学習や研究に当たっていずれも無くてはならぬ存在として，車の両輪のような役割を担っているが，この「地理探究」においては，そこにとどまらない位置付けが求められる」（p.20）とある。

高等学校地理歴史科の「地理総合」では，中学校社会科との重複を避けるために「世界の諸地域」のような地誌的内容は無い。そこで『平成 29 年版中学校学習指導要領社会科編』の大項目 B「世界の様々な地域」をみると，「(1) 世界各地の人々の生活と環境」，「(2) 世界の諸地域」の二つの中項目で構成されている。この中項目は，「場所や人間と自然環境との相互依存関係などに関わる視点に着目して，世界各地の人々の生活が営まれる場所の自然的条件と社会的条件を関連付けて多面的・多角的に考察し，表現する力を育成することを主なねらいとしている。そうした学習の全体を通して，世界の人々の生活や環境の多様性，それらの相互依存関係を理解できるようにすることが求められている」（p.44）。また，この中項目で身に付けたい「知識」に関わる事項として，また，ア（イ）「世界各地における人々の生活やその変容を基に，世界の人々の生活や環境の多様性を理解すること。その際，世界の主な宗教の分布についても理解すること」（p.45）とされ，中学校社会科地理的分野においても，世界各地の人々の衣食住などの生活文化や宗教についての学習が挙げられている。

上記の中学校社会科との内容の重複を避けるために高等学校地理歴史科の地理総合では「国際理解を目的とした大項目は，「地図や地理情報システムで捉える現代世界」の学習成果を踏まえ，世界の特色ある生活文化と地球的課題を主な学習対象とし，特色ある生活文化と地理的環境との関わりや地球的課題の解決の方向性を捉える学習などを通して，国際理解や国際協力の重要性を認識することを主なねらいとしている。このねらいを達成するため，この大項目は「(1) 生活文化の多様性と国際理解」，「(2) 地球的課題と国際協力」という二つの中項目で構成されている。

「世界の人々の特色ある生活文化については，この中項目で展開する主な学習対象を示したものである。ここでいう「生活文化」とは，地理的環境との関わりにおいて育まれる人間の生活の営みであり，広く人間の諸活動から生み出されるもののうち，衣食住を中心とする世界の人々の暮らしや，そこから生み出される慣習や規範，宗教などの主に生活様式に関わる事柄を意味している。なお，ここでの学習は国際理解を主なねらいとしており，学習対象はあくまで「世界の人々の特色ある生活文化」であって，すでに中学校社会科地理的分野において州ごとに「世界の諸地域」を学習していることを踏まえれば，ここでの学習がその繰り返しとならないよう，また，「地理探究」における「現代世界の諸地域」の学習とも重複することのないよう，厳に留意する必要がある」（p.53）

とあり，中学校での地誌とは異なる内容が求められている。

このような変化は，アメリカのキューバンによる地誌教育改革が網羅的で羅列的，無味乾燥と評される地誌教育を抜本的に改め，人々の生活を取り上げ，内容編成の視点を「産業・開発」から「生活・文化」に移したこと（草原，2001）と共通する。

これに対して岡橋（2019）は，世界地誌が地域の多様性を重視するのに対して，「地理総合」は生活文化の多様性に焦点を当ててており，現行の学習指導要領「地理 A」の生活・文化が「衣食住を中心とした生活様式だけでなく，生産様式に関わる内容も含み，広く人間の諸活動から生み出されるもの」としていることと大きく違っていると指摘している。「地理総合」で扱う生活文化では経済活動などが含まれず，文化の概念がより狭くなっていること，また，「文化の多様性（差異）に注目するばかりでなく，文化の持つ普遍的性格を地理的に理解させること」（松井，2017）について疑義を提起している。学習指導要領の解説では「人々の生活文化が多様な地理的環境と相互に影響し合って多様性をもち」(p.55)，その地理的環境には「自然環境だけでなく，歴史的背景や人々の産業の営みなどの社会環境も含まれることに留意する」(p.55)と記され，人々の生活文化と経済活動との関係に触れるようにされているものの，国際理解や国際協力に必要な資質能力を育成するための「生活･文化」の視点からの学習には，どのように政治･経済（産業）などの他の地理的事象と関連させながら授業を展開させるのかが課題となる。

さらに岡橋（2019）は，「グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を考察する「地理総合」では，生活文化概念に基づいて一般性を志向する中で，主題の寄せ集めになり，地域や全体が見えなくなる危険性がある。部分の寄せ集めにならないよう，俯瞰的な視野や体系性（システム）を併せ持つことが大きな課題となる」(p.35）と指摘した。このような指摘は，教育現場に携わる地理担当教員も同様と思われる。

３．イギリスのナショナルカリキュラム

中井（1997）によるイギリスのナショナルカリキュラムの地理科の展開の分析の中で，1991 年版と 1995 年改訂版との比較が行われているが，地誌的内容に関してみると，1991 年版では，キー・ステージ 1 では，取り扱う「場所」は，「身近な地域」と「それと対照的な同規模の 2 地域（イギリス国内・国外から 1 例ずつ)」の 3 つ，キー・ステージ 2 では，1991 年版の取り扱う「場所」は，「身近な地域」，「それと対照的な同規模の 3 地域（イギリス国内 1 , 国外 2)」,「郷土」の 5 つから，1995 年改訂版では，「場所」は，「身近な地域」「それと対照的な同規模の 2 地域（イギリス国内・国外から 1 例ずつ)」の 3 つ，キー・ステージ 3 で扱う「場所」は，1991 年版では「身近な地域」「それと対照的な同規模の 2 地域（イギリス国外 2 地域)」「郷土」「国家 3（ヨーロッパ 1，途上国 1，先進国 1)」の 7 つから，1995 年改訂版では，「場所」は国家 2（先進国 1，途上国 1，ただしそれらの国内の地方も扱う）に変更された。

イギリスの「中等教育・地理科のナショナルカリキュラム（2013 年版）」（Department for Education, 2013）では，キーステージ 3 の地理科において，生徒が教えられるべき項目の中で地誌に関連していると考えられるのは，Location knowledge（位置の知識）と Place knowledge（場所の知識）である。

Location knowledge の項目では，世界地図を使用して，アフリカ，ロシア，アジア（中国とインドを含む)，中東地域に焦点を当て，極地や暑い砂漠，重要な自然的および人文的特徴，農村と主要都市を含んだ，環境地域に焦点を当てて，位置に関する知識を広げ，世界の国々の空間認識を深める。また，Place knowledge の項目は，生徒が理解すべき，人文地理と自然地理の学習を通して，アフリカとアジアの地域内の地域の人文地理学および自然地理学の研究成果から，主要な自然地理的および人文地理的特徴，国および主要都市,地理学的等質性や，場所間の相違点や場所間の関係について理解するものとされている。

ここで注目すべきは，中等教育のキーステージ 3 の段階での地誌的な内容は，アフリカ，ロシア，アジア（中国とインド)，中東地域に関してのみとなっていることである。日本では世界や国内の地誌についての単元は国内の各地域における主要地域や世界の主要国の地誌は万遍なく単元構成に含まれている。

ちなみに，初等学校前期（5～7 歳）となるキーステージ 1 では，Locational knowledge の項目では，世界の 7 大陸と 5 大洋の地名と位置，イギリス連合王国の 4 つの国と首都の名前と位置，特徴と周辺の海洋の特徴を理解する。Place knowledge の項目では，イギリス連合王国の小地

域と対照的な非ヨーロッパの国の小地域の人文地理学と自然地理学の学習を通して，地理的共通性と相違性を理解する。

また，キーステージ 2 では，Locational knowledge の項目は，イギリス連合王国の郡（カウンティ）と都市の地名の名前と位置，地理的地域とそれらを識別する人文・自然的特性，主要な地形的特徴（丘，山，海岸，川を含む），および土地利用パターン。これらの側面のいくつかが時間の経過とともにどのように変化したかを理解する。地図を使ってヨーロッパ（ロシアの場所を含む）と南北アメリカに焦点を当て，環境地域，主要な自然および人文的特性，国，主要都市に焦点を当てた学習となる。Place knowledge の項目では，イギリス連合王国の地域，ヨーロッパの国の地域，南北アメリカの地域の人文・自然地理の学習を通して，緯度，経度，赤道，北半球，南半球，南回帰線，北極圏と南極圏，プライム/グリニッジ子午線とタイムゾーン（昼と夜を含む）の位置と重要性を理解し，地理的等質性と相違性を理解する。

イギリスのナショナルカリキュラムでは，地誌的内容の項目はわずかである。この傾向は 1991 年のナショナルカリキュラムから最新版の 2013 年版まで継続され，先述の志村（2003）が指摘するように，地誌的内容が大幅に削減されている。

その理由として，イギリスの地理教育における動向が関係している。志村（2007）によると，「1950 年代に開発されたサンプル・スタディは，地理学習が，地誌情報の増大に伴い個別的知識を網羅的に過剰に伝達するようになってしまったことの改善を目的としたものであり，そこで重視された思考方法は自然を重視した環境－人間環境論であり，等質地域論であった」（p.94）。一方，「ケース・スタディ―が使用されるようになっていった 1970 年代は，地誌中心の地理学習から系統地理的・主題的地理学習への転換が進んだ時代であり，自然環境よりも社会－人間関係論的で機能地域論的な思考様式が重視される時代であった」（p.94）。

また，志村（2018）によると，1970 年代以降のイギリス地理教育では，事実的知識よりも概念的知識の習得を目標としてきたとし，イギリス教育界における「知識への展開」として，「コンピテンシー・ベース」を超える教育への展開を挙げている。この「コンピテンシー・ベース」を超える教育とは，ヤング（2017）による「将来の社会を想像し幸福な人生を送るために生徒が学校で身に付けるべき知識は，内包的知識を主とした知識である」とするもので，それを「力強い知識」（powerful knowledge）と呼んだ。地理教育における「力強い知識」について，ランバートはケイパビリティ論を適用して「地理の力強い知識」を身につけることが学習者のケイパビリティ（潜在能力）を高めるとする地理ケイパビリティ（Geo-Capability）論を主張した（伊藤，2012）。

上記のような地理教育における動向との関連から，ナショナルカリキュラムで取り上げられた地域について検討すると，ケーススタディの学習を通して「地理の力強い知識」を習得できるようになっているか，各ケーススタディにおける単元の内容構成やアクティビティを分析することによって，「力強い学問的知識」がどれだけ組み込まれているのかを把握できると考える。

4．『Geog.4th edition』における地誌の内容分析

Geog は 3 巻 1 セットで構成される教科書であり，これまでに 4 回の改訂がなされ，2020 年時点では 2019 年に出版された第 5 版が最新である。しかしながら，本稿執筆時点では，第 5 版の第 3 巻が未刊行（2021 年刊行予定）であり，第 5 版すべてが揃っていないため，第 4 版を分析対象とした。なお，イギリスでは日本のような教科書検定制度は設けられてはいないが（志村，p.104），*Geog* はナショナルカリキュラム地理との対応を意識して作成されている（Gallagher et al., 2014, 裏表紙）。

『Geog.4th edition』における地誌的単元について，第 1 巻では「UK について（About the UK）」，「アフリカ（Africa）」，「アフリカの角で（In the Horn of Africa）」，第 2 巻では「アジア（Asia）」，「南西中国（Southwest China）」，第 3 巻では「ロシア（Russia）」，「中東（The Middle East）」がそれぞれ設定されている。

これら 7 つの単元を空間スケールごとに整理したものが第 1 図になる。一国レベルで単元を構成しているのが「UK について」，「西南中国」，「ロシア」，地域レベルのものが「アフリカの角の中で」，「中東」，州レベルのものが「アフリカ」および「アジア」となる。

4.1　一国レベルで構成される地誌的単元

導入の小単元を除き，7 もしくは 8 の小単元から構成される。UK を除き，最初の小単元では学習する国の位置や国土の広がり，人口規模を示した小単元（西南中国：2-8.1，ロシア：3-6.1）が

一国レベルで構成される地誌的単元

小単元	タイトル	内容
1-3.0	UKについて	本章の目標の提示
1-3.1	あなたのホーム アイランド	自然環境
1-3.2	非常に複雑です！	UKを構成する国々，歴史
1-3.3	どんな天気なの？	気候のパターン
1-3.4	私たちは誰？	移民の歴史やその影響
1-3.5	私たちはどこに住んでいるの？	不均等な人口分布・人口密度
1-3.6	私たちはどうでしょう？	歴史，文化，政治，経済面からみたUKの特徴
1-3.7	ロンドン，私たちの首都	人口成長のパターン

小単元	タイトル	内容
2-8.0	南西中国	本章の目標の提示
2-8.1	中国の概要	中国全土の地形，気候帯，人口分布，工業
2-8.2	発展する中国	40年間の改革の歴史
2-8.3	中国の西南部	南西部の概要（人口・省・都市）
2-8.4	重慶	都市部・産業
2-8.5	重慶での生活	重慶での生活問題（戸籍問題）
2-8.6	生物多様性の頂点	生物多様性・森林破壊
2-8.7	チベット	チベットの概要（位置・気候・生活）
2-8.8	チベットのすべての変化	チベットの開発・遊牧民の生活変化
2-8.9	河川とダム	ダム開発とその影響

小単元	タイトル	内容
3-6.0	ロシア	本章の目標の提示
3-6.1	ロシアとの出会い	ロシアの位置・国土
3-6.2	ロシアのちょっとした歴史	ロシアの歴史
3-6.3	ロシアの主な自然的特徴	ロシアの自然（河川・山脈）
3-6.4	ロシアの気候帯とバイオーム	ロシアの気候と植生・生物
3-6.5	人々はどんな感じなの？	居住・産業構造・民族割合
3-6.6	ヨーロッパロシアへの旅	ヨーロッパロシアの概要
3-6.7	サハ共和国：ロシア最大の行政区	サハ共和国の概要
3-6.8	それで，ロシアはどうしているの？	世界から見たロシアの地位

地域レベルで構成される地誌的単元

小単元	タイトル	内容
1-7.0	アフリカの角で	本章の目標の提示
1-7.1	アフリカとの出会い	アフリカの角の位置・アフリカの角という地域区分の意味
1-7.2	アフリカの角：自然的特徴	自然地理的特徴（河川，海岸，火山）
1-7.3	アフリカの角：気候	気候（気温・降水量）・気候と農業
1-7.4	エチオピアのコーヒー豆農園	農業・コーヒー豆の輸出・フェアトレード
1-7.5	遊牧民としての暮らし	遊牧民の暮らしと抱える諸問題
1-7.6	塩鉱夫としての仕事	岩塩採掘・アフリカ大地溝帯
1-7.7	沿岸での暮らし	海洋資源・海賊問題
1-7.8	町の中で：アディスアベバ	アディスアベバの概要と都市問題
1-7.9	ジブチ：格好の場所	海上交通や通信の要所・統治上の問題（食料・非正規・貧困・教育）
1-7.10	アフリカの角はどうしているの？	アフリカの角に位置する国々とUKの比較

小単元	タイトル	内容
3-7.0	中東	本章の目標の提示
3-7.1	中東の導入部	中東の位置・国々・地域概観と現在
3-7.2	中東：自然地理	自然地理的特徴（山脈・河川・海岸・砂漠・地震と火山）
3-7.3	中東：気候帯とバイオーム	気候（気温・降水量）・バイオーム（植生・動物）
3-7.4	中東の人々	人口数・人口密度・民族・宗教
3-7.5	アラビア半島を詳しく見ましょう	アラビア半島の国々と共通点
3-7.6	中東の紛争	中東の紛争とイスラム過激派
3-7.7	イスラエルとパレスチナ国	イスラエルとパレスチナの歴史と現在

州レベルで構成される地誌的単元

小単元	タイトル	内容
1-6.0	アフリカ	本章の目標の提示
1-6.1	アフリカって何，どこにあるの？	アフリカの位置，地域概観
1-6.2	アフリカのちょっとした歴史	アフリカの歴史と植民地化の影響
1-6.3	今日のアフリカ	アフリカの概要（人口・生活・天然資源・貧富の差）
1-6.4	アフリカの国々	アフリカの国々・アフリカの地域区分
1-6.5	アフリカにおける人口分布	人口数・人口密度
1-6.6	アフリカの自然的特徴	自然地理的特徴（山脈・河川・砂漠・湖）
1-6.7	アフリカのバイオーム	バイオーム（植生）

小単元	タイトル	内容
2-7.0	アジア	本章の目標の提示
2-7.1	アジアって何，どこにあるの？	アジアの境界線・面積・人口
2-7.2	アジアの国々と地域	国々の首都・アジアの地域区分
2-7.3	アジアのちょっとした歴史	歴史・宗教・貿易・植民地
2-7.4	アジアってどんな感じなの？	人文地理的特徴（アジア地域の民族・宗教・文化）
2-7.5	アジアの自然的特徴	自然地理的特徴（山脈・河川・砂漠・氷河）
2-7.6	アジアの人口	人口数・人口密度
2-7.7	アジアのバイオーム	バイオーム・気候・分布

第１図　７つの地誌的単元の概要

示される。これに続き，気候，地形，バイオーム，自然環境を扱う自然地理的内容（UK：1-3.1，1-3.3，西南中国：2-8.3，ロシア：3-6.3，3-6.4）および歴史，人口，民族・人種，生活・文化，産業・経済などを扱う人文地理的内容（UK：1-3.2，1-3.4～1-.3.5，西南中国：2-8.2，ロシア：3-6.2，3-6.5）が配置されている。単元の後半部にかけては，学習する国に位置する代表的な都市や地方が取り上げられる（ロンドン：1-3.7，重慶，チベット：2-8.3～2-8.4，2-8.7～2-8.9，ヨーロッパロシア，サハ共和国：3-6.6～3-6.7）。ここでは，学習する国におけるこれら都市，地方の位置づけや特徴だけでなく，特定のテーマ（ロンドン：人口成長）や諸問題（重慶：戸籍問題，チベット：開発問題，サハ共和国：冬季の交通問題）も学習内容として扱われている。

なお UK の「私たちはどうでしょうか」（1-3.6）では，様々な側面から UK を捉えることで，UK 人とはどのようなものなんかという，国民性を問うような学習内容が設定されている。またロシアの「それで，ロシアはどうしているの？」（3-6.8）はロシアのこれまでの変化を踏まえ，他国への影響や国の展望を考察するものである。

4.2　地域レベルで構成される地誌的単元

次に地域レベルで構成される２つの単元も先ほどのと同様に，単元の前半部では学習する地域の位置や広がり，地域概観が扱われ（アフリカの角で：1-7.1，中東：3-7.1），「アフリカの角で」では 1-7.2～1-7.3 にかけては自然地理的内容が，「中

東」では，3-7.2～3-7.3 にかけて自然地理的内容，3-7.4～3-7.6 にかけて人文地理的内容が設定されている。

また学習のなかでは，その地域を構成する国々も当然扱われているが，2 つの単元では国々の扱い方が異なる。「アフリカの角で」では小単元ごとに 4 つの国（エチオピア，エリトリア，ジブチ，ソマリア）が配置され，各小単元はその国に関連するテーマと諸問題から学習内容が構成されている。一方「中東」では 3-7.7 を除き，特定の一国のみで学習内容が構成されることはない。例えば 3-7.5 のように石油を視点にして，中東諸国の状況を比較するといった構成をとる。言い換えれば，「アフリカの角」はある特定テーマや諸問題を一国を通して学ぶのに対して，「中東」ではあるテーマや諸問題を複数の国々の比較を通して学ぶことを意識しているといえる。

4.3　州レベルで構成される地誌的単元

「アフリカ」，「アジア」の両単元は導入部を除き，7 の小単元から構成される。はじめに「アフリカ／アジアって何，どこにあるの？」という小単元（1-6.1，2-7.1）が設置され，各州の位置を把握したり，州全体を概観したりするところから学習がはじまる。順序は両者で多少異なるが，各州を構成する国々と地域区分（アフリカ：1-6.4，アジア：2-7.2），人口や歴史，経済などを扱う人文地理的内容（アフリカ：1-6.2～1-6.3，1-6.5，アジア：2-7.3～2-7.4，2-7.6），自然環境などを扱う自然地理的内容（アフリカ：1-6.6～1-6.7，アジア：2-7.5，2-7.6）が配置されている。

なお，両単元ともに州を構成する国々を学習内容として扱う小単元（アフリカ：1-6.4，アジア：2-7.2）が設定されている。しかしながら，ここでは個別の国に関する場所の知識を獲得したり，深めたりするものではなく，国や首都の位置，州内の地域区分からみた国々の位置といった位置の知識が主であり，位置認識を意識して設定したものであると考えられる。

4.4　地誌的単元の学習内容の特徴

上述の整理を踏まえ，地誌的単元の学習内容の特徴として，3 点あると考えられる。

1 点目は 3 つの空間スケール（国家，地域，州）から学習する地域が設定されている点であり，学習者は様々なスケールの地域を学ぶ機会が設定されている。2 点目は，州レベルにおいては国家～大陸，地域レベルでは都市～地域，国レベルでは都市～国家というように，1 つの単元内でも様々な空間スケールに基づいて，学習対象地域が設定されている点である。学習者に対して，スケールを変えて，地域や事象間のつながりを捉えるように促していると考えられる。3 点目は，3 つの空間スケール（国家，地域，州）で，内容構成の考え方や地誌学習の方向性に差異がみられる点である（第 1 表）。どの空間スケールの単元でも，地域概観，人文地理的内容，自然地理的内容が含まれているという点では共通している。しかしながら，国および地域レベルでは，当初に設定されたスケールよりも小さな空間（アフリカの角で：アフリカの角全体→構成する各国）において，特定のテーマや諸問題を扱うケーススタディが設定されている。つまり，3 つの空間スケールの単元の前半部では，静態地誌的な内容構成によって空間認識をめざすという点では共通するが，国および地域レベルの後半部では，空間認識にとどまらず，特定のテーマや諸問題から地域を考察するような動態地誌的な内容構成が用いられており，地域構造や問題原因を探究することが目指されていると解釈できる。

第 1 表　3 つの空間スケールに基づく各地誌的単元の特徴

単元の空間スケール	内容構成		知識	地誌学習の方向性
	静態地誌的な構成	動態地誌的な構成		
国レベル	国全体を対象に	都市や地方を対象に	場所の知識が強い	空間認識を踏まえながらも，社会認識重視（地域構造，問題理解）
地域レベル	地域全体を対象に	都市や国家を対象に		
州レベル	州全体を対象に	特になし	位置の知識が強い	空間認識重視（地域性，多様性の理解）

第２表　地誌的単元「中東」の展開

展開			小単元名	学習内容	アクティビティ	技能
学習の動機づけ			3-7.0 中東	本章の目標の提示	122ページの写真を見てください。これらは全部中東に関するものです。 ・中東はどの大陸にありますか？本当ですか？ ・ これらの写真から何を言うことができますか？ ・ 写真では，どのような対比が見られますか？ ・ 中東についてどう思いますか？	
地域の静態地誌的な把握（系統地理的な項目に基づく地域理解）	中東やその国々の位置の理解		3-7.1 中東の概要	中東の位置・国々・地域概観と現在	**1**　下にある文字列は中東の国名をバラバラにしたものです。 正しい順番に並べ替えてください。 　a EYTKRU　　b AYRIS　　c NIAR　　d ARQAT　　e LNBEONA　　f PEYGT　　g MEENY　　h MOAN **2**　図Bで，中東諸国を見てください。 a 最も大きい国はどれですか？　b 2番目に大きい国はどれですか。　c 最も小さい国はどれですか？　d 島国はどれですか？ e イラクの国境はどれですか？ f シリアの国境はどれですか？ **3**　アラビア半島とは何ですか？ **4**　中東には地図上に直線でひかれた国境があります。どれですか？ **5**　1922年までに，イギリスが直接支配，または植民地とした中東にある4つの国を挙げてみてください。 **6**　中東とオスマン帝国の関係を45語程度で説明してください。	**1**　言 **2**　地 **3**　思 **4**　地 **5**　地 **6**　言
	自然地理的視点に基づく地域の理解	地形	3-7.2 中東：自然地理	自然地理的特徴（山脈・河川・海洋・砂漠・地震と火山）	**1** a 中東の二つの山岳国を挙げてください。　b どの国で，ⅰ ザグロス山脈　ⅱ ヒジャーズ山脈　ⅲ トロス山脈を見つけることができますか？ c ⅰ どちらは中東の最も高い山脈ですか？ ⅱ それはどの国にありますか？ **2** a 中東地域に接する水源の名前を挙げてください。　b どの二つは，ホルムズ海峡で結ばれますか？ **3**　アラビア海はどの海の一部ですか？（140ページ？） **4** a中東で三つの主な川の名前を挙げてください。　bサウジアラビアには永続的な川がありません。理由を挙げてください。 **5**　紅海の一端に運河が作られました。 aその名前は何ですか？　bどの国にありますか？　c 船はお金を払ってその運河を使う理由を解釈してください。 **6**　ルブアルハリ砂漠は何ですか？それから，どこにありますか？ **7** a 紅海は緩やかに広がっています。なぜですか？　b トルコは地震を起こりやすいです。なぜですか？	**1**　地 **2**　地，言 **3**　地 **4**　地，思 **5**　地，思 **6**　地 **7**　思
		気候，バイオーム	3-7.3 中東：気候帯とバイオーム	気候（気温・降水量）・バイオーム（植生・動物）	**1**　中東についてこの段落から書いてみよう。白い枠の言葉を用いて空欄を埋めてみよう。 中東は全体的に（　），なぜなら（　）だからだ。また，そこは乾燥している。なぜなら乾燥した空気が（　）を通って（　）を失った後に（　）場所に位置しているからである。したがって大抵の場所は雨が少なくなり，植生は（　）なる傾向がある。しかし，（　）が成長するための十分な雨量が見られる場所もある。 　乏しく　　風　　赤道　　緯度　　森林　　熱帯　　経度　　熱い　　寒い　　上昇する　　下降する　　水分 **2** a 中東の半分はより降水量が大きい：上の方か下の方か？　b 全体的に中東は淡水が少ない。なぜ？ **3**　Cの地図を見てみよう。これらを説明できるかな（Bの地図が助けてくれるかもしれない。） a 地図上のPでは森林が育つ。しかしQではそうではない。　b Qには草原がある。しかし，Rにはない。 **4**　あなたは休日に中東に行く予定です。どの気候帯を選ぶだろうか。35字以内で理由を説明しましょう。	**1**　地，言 **2**　地，思 **3**　地，思 **4**　言
	人文地理的な視点に基づく地域の理解	人口，文化	3-7.4 中東の人々	人口数・人口密度・民族・宗教	**1**　このような項目の表を作りましょう。そして，中東の国と首都を少なくとも12個埋めてください。やりたい人はもっと挙げてみましょう。 **2** a 地図Bについて，エジプトの人口密度の分布様式を記述して，説明しましょう（前の地図も確認しましょう）。 b「中東の人々は山に住むことを避けている」正しい？誤り？答えの根拠も示してください。 c 前の地図を用いながら，XよりもYのほうは人口密度が高い理由を説明してみましょう。 **3**　表Aは中東の人口を示しています。 a 人口が最も多い国を挙げてください。（用語集）　b 人口が最も少ない国を３つ挙げてください。 c 以下の3つの国を挙げてください。ⅰ イギリスよりも人口が多い国。ⅱ 人口が4-500万人の国。ⅲ ロンドンよりも人口が少ない国。 **4**　以下の国の主な民族は何でしょう？ aイラン　b サウジアラビア　c クルディスタン **5**　以下の国の主要言語は何でしょう？ aイラン　b トルコ　c サウジアラビア **6**　中東の主要な宗教は何でしょう？	**1**　言 **2**　地，思 **3**　地，計 **4**　地 **5**　地 **6**　地
		政治，経済（石油産業）	3-7.5 アラビア半島を詳しく見ましょう	アラビア半島の国々と共通点	**1**　アラビア半島の：a 三つの最も小さい国　b 最も大きい国の名前を言ってください。 **2**　これらの用語の意味は何ですか？（辞書？）a 半島　b オアシス　c 帯水層　d 化石水 **3** a 絶対君主制とはどういう意味ですか？（辞書？）　b イギリスには絶対君主制がありますか？説明してください。 **4**　1人あたりのGDPは，国の人々が平均してどれほど豊かであるかを示します。右の表を見てください。 aアラビア半島の国々の中に，１つだけ一人当たりのGDPが英国より低い国があります。どれですか？ b カタールの人は：① イギリスの人　② イエメンの人より一人当たり何倍豊かですか？（比較してみてください。） **5**　どうしてすべてのアラビア半島の国々はこんなに豊かなんですか？ **6**　アラビア半島には世界にある海水淡水化設備（辞書？）のうちのほとんどがあります。これらは彼らの未来にとって非常に重要です。その理由を説明してみてください。	**1**　地 **2**　地 **3**　思 **4**　計 **5**　思 **6**　思
地域の動態地誌的な認識（特定のテーマ・諸問題に基づく地域理解，地理的・社会的事象の探究）	中東における紛争の認識とその原因探究		3-7.6 中東の紛争	中東の紛争とイスラム過激派	**1**　地図Ａを見て，以下の国でイスラム教の主体はどの派ですか？ a サウジアラビア　b イラン　c イラク　d オマーン **2** a 多くのアラブ国の指導者はdictatorial。イタリック体の用語を説明してください。 b アラブの春は何ですか？起こした原因は何ですか？ c アラブの春の抗議が内戦につながった１つの国を挙げてください。 **3** a ISISは何ですか？　b いくつかのイスラム国家は，ISISと戦っています。その原因を説明してください。 **4** a developmentの意味を説明してください。 b 紛争のせいで多くの中東諸国の開発が遅れています。スパイダーグラフか50文字以内の説明文でその理由を解釈してください。	**1**　地 **2**　地，思 **3**　地，思 **4**　思，言
	パレスチナ問題における対立構造の探究		3-7.7 イスラエルとパレスチナ国	イスラエルとパレスチナの歴史と現在	**1**　ユダヤ人がパレスチナに故郷を築きたいと思ったのはなぜですか？２つの理由を挙げてください。 **2**　地図Bを見てください。パレスチナを分割する国連の提案を示しています。 a 提案は海岸線を公平に共有するように提案しました。これが両国にとって重要である理由を説明してください。 b パレスチナ人がその提案を拒否した理由を考えてください。 **3**　以下はパレスチナ人の領土にどのような影響を与えましたか？ a　1948年第一次中東戦争　b 第三次中東戦争 **4** a なぜイスラエルはヨルダン川西岸に植民地を建設したのでしょうか？ b パレスチナ人は植民地に対してどう思っているでしょうか？ c 植民地に関する国際的な意見はどのようなものでしょうか？ **5**　イスラム教の国々にほとんど囲まれていることについて，イスラエルはどのように感じていますか？ **6**　イスラエルがエルサレムを統治し，それを首都と主張していることに対して，パレスチナ人がよく思っていない理由を述べてください。 **7**　パレスチナ国が２つに分かれていることは，人々にどのような困難を引き起こしますか？できるだけ多く書いてください。	**1**　思 **2**　思 **3**　思 **4**　思 **5**　思 **6**　思 **7**　言

注１：技能欄における「地」，「言」，「思」，「計」の分類は次の通り。地：地理的用語・地理の定着，地図や資料読解などの地理的技能，言：文章を書くなどの言語技能，思：説明などの思考技能，計：計算技能。なおこれらの技能の名称は，*Geog* の教師用指導書に示されているものを参考にした。

注２：また展開および技能の欄は筆者による解釈であり，教師用指導書とは必ずしも一致しない。

資料：Gallagpher, R., Parish, R.（2015）から作成。

5．『Geog.4th edition』における地誌的単元のアクティビティの分析

ここでは，史幅の都合上，地誌的単元「中東」に絞り，アクティビティの分析を試みる。第2表は，本単元の展開を整理したものである。

地誌的単元「中東」は，単元の目標の提示や学習の動機づけのために設定される導入（3-7.0）を除き，7 つの小単元から構成される。そして学習のまとまりから，大きく 2 つに分けることができる。

5.1　中東地域の静態地誌的な把握

小単元 3-7.1 では，中東の位置や中東を構成する国々，現在に至るまでの簡単な歴史が学習内容として扱われ，主要な資料として，2 枚の地図（ヨーロッパ・アジア・アフリカの地域，中東の近辺）が見開きに掲載されている。アクティビティについては，中東の国々の大小や国境の位置など，地理的知識の理解や地理的技能が多くをめており，アラビア半島とは何かを説明する，イギリスの支配国の特定や中東とオスマン帝国の関係を説明する，といった言語技能に関するものも設定されている。

続く 3-7.2～3-7.3 は自然地理的な視点から地域の特徴を理解するものであり，3-7.2 では主として地形，3-7.3 では気候やバイオームが学習内容として扱われている。3-7.2 のアクティビティでは，地理的用語の定義を確認する，位置を確認するものもあるが，サウジアラビアには永続的な河川が存在しない理由やトルコで地震が発生しやすい理由など，思考技能に関するものも設定されている。3-7.3 では，地理的用語を当てはめ，文章を完成させる地理的知識や言語技能に関わるアクティビティに加え，地図や模式図の読図を通じて理由を説明するものも設定されている。なお「あなたは休日に中東に行く予定です。どの気候帯を選ぶだろうか。35 文字以内で理由を説明しましょう」のように言語技能に特化したアクティビティも設定されている。

3-7.4～3-7.5 は人文地理的な内容構成である。3-7.4 は人口や文化を視点に，3-7.5 は中東の主要産業である石油と政治を視点に中東各国の特色が示されている。3-7.4 のアクティビティをみると，表を作成してまとめるといった言語技能のほかに，計算技能に関わるアクティビティも設定されている。なおアクティビティの半数以上は，宗教や言語の分布といった地理的知識を獲得するものである。3-7.5 では，地理的知識を獲得するもの以外に，「絶対君主制とはどういう意味ですか？（辞書？）イギリスには絶対君主制がありますか？説明してください」というように政治的知識を獲得したり，説明をしたりするアクティビティも設定されている。また，「どうしてすべてのアラビア半島の国々はこんなに豊かなんですか？アラビア半島には世界にある海水淡水化設備のうちのほとんどがあります。その理由を説明してみてください」というアクティビティを通じて思考技能の育成にも力点が置かれている。

このように単元の前半では，位置，自然地理，人文地理の視点から中東を把握する学習展開になっている。アクティビティの分析から，地理的・社会的事象の構造や原因を説明する思考技能も設定されているが，地理的用語や知識を確認するものが多くを占めていることがわかった。

5.2　中東地域の動態地誌的な認識

小単元 3-7.6 および 3-7.7 では，学習内容として中東における様々な紛争が扱われている。3-7.6 では，紛争の原因を国境・宗派・独裁者と革命・石油・パレスチナ問題の 5 つの視点から言及し，最後にイスラム過激派とも関連させて紐解いている。アクティビティをみると，1 つを除き，紛争の原因を説明させたり，紛争による社会への影響を説明文の形で表現させたりなど，主として思考技能や言語技能に関わるものである。3-7.7 は，3-7.6 の学習を受けて，中東の紛争の内，イスラエルとパレスチナを学ぶ小単元である。アクティビティをみると，思考技能に関するものが多く設定されている。しかしながら，前節までは，地理的・社会的事象のメカニズムや原因を思考させていたのに対して，本小単元では人々の思いや考え，意見についての思考を求めている。

このように単元の後半部は，中東地域を代表する事象である紛争をテーマにして，中東における紛争構造を認識する学習展開となっている。そこでは，地理的知識等の獲得よりも，主に紛争の原因や対立構造における人々の思いを思考する思考技能といったアクティビティが設定されていた。

6．まとめ

地理学の研究が多様なスケールで地域を分析するのと同様に，地誌の学習もさまざまな空間スケールで学習することで，多面的多角的な考察が可能となる。従来，網羅的で羅列的であるとの批判

のある地誌教育において，地理的事象間の関係をとらえさせたり，地理的事象の構造や背景を思考たりするアクティビティを用いた地誌学習への転換は，知識理解を中心としたものから，学習者のケイパビリティを高めるとする学習への転換を図るものといえる。分析対象とした地理教科書においても，知識理解的な内容が多かったものの，多様なアクティビティによって，思考力や地理的スキルの育成が図られており，「地域を学ぶ地誌」から「地域で学ぶ地誌」への変化を読み取れ，今後の地誌教育の改善の手がかりを得ることができた。

文献

伊藤直之（2012）：イギリスにおける地理カリキュラム論争—スタンディッシュとランバートの教育論に着目して—．社会科研究，76，11-20.

岡橋秀典（2019）：「地理総合」における国際理解とは．学術の動向，24-11，32-35.

草原和博（2001）：文化誌研究としての地理教育—地誌教育改革論のプロトタイプを求めて—．兵庫教育大学教科教育学紀要，14，9-18.

志村　喬（2003）：「ナショナル・カリキュラム地理」改訂にみる初等・中等地理カリキュラム編成原理—地誌的学習内容の変更を中心に—．上越教育大学研究紀要，23-1，225-243.

志村　喬（2007）：地理学習における事例地域概念に関する一考察—サンプル・スタディとケース・スタディの異同—．大嶽幸彦先生退職記念事業会編：『大嶽幸彦先生退職記念論集　地域と地理教育』共同出版，81-99.

志村　喬（2010）：『現代イギリス地理教育の展開—『ナショナル・カリキュラム地理』改訂を起点とした考察—』風間書房.

志村　喬（2018）：イギリス教育界における「知識への転回」と教員養成—地理教育を中心に—．松田愼也・畔上直樹・小島伸之監修『社会科教科内容構成学の探求—教科専門からの発信—』風間書房，212-234.

谷内　達（2009）：地理教育の今日的課題．中村和郎・高橋伸夫・谷内　達・犬井　正編：『地理教育講座　第１巻　地理教育の目的と役割』古今書院，20-24.

中井　修（1997）：イギリスにおける「全国カリキュラム・地理」の展開. 社会科研究, 47, 31-49.

中山修一（1996）：地誌学と地域研究の在り方に関する日本的解釈の展開. 地誌研年報, 5, 77-91.

松井圭介（2017）：「地理総合」と生活・文化から見た世界の多様性．新地理，65-3，106-116.

Gallagpher, R., Parish, R. and Williamson, J. (2014): *Geog. 1, 4th edition*. Oxford University Press.

Gallagpher, R., Parish, R. (2014): *Geog. 2, 4th edition*. Oxford University Press.

Gallagpher, R., Parish, R. (2015): *Geog. 3, 4th edition*. Oxford University Press